

# オーミケンシ(株) 加古川工場


## 環境保全対策実施報告書

### 1. 環境保全対策実施状況（平成27年度）

#### (1) 大気汚染に係る対策

推進の内容	実施の成果
① ボイラー及びディーゼル発電機の点検・メンテナンスを実施しました。	ボイラー及びディーゼル発電機の安定運転及び効率的運転ができました。
② 省エネルギー委員会活動を継続し、工場を挙げての省エネ活動の推進に努め、エネルギー原単位の削減に努めました。	省エネを進める項目と目標値を整理し、各担当を定め、全従業員を対象に継続した取組みを行っております。
③ 熱交換器の定期的な整備を行い、熱回収の強化に取り組みました。	排熱の回収効率維持に努めました。
④ リサイクル燃料の使用に取り組みました。	RPF燃料使用率の維持に努めました。

#### (2) 水質汚濁に係る対策

推進の内容	実施の成果
① 処理施設の点検・メンテナンス強化を実施し、水質の安定に努めました。	処理施設の安定した運転ができました。
★ ② 放流口窒素燐自動分析計の更新	正確な測定分析を維持しております。 

- ★ ③ 活性汚泥法 栄養剤タンクの更新  
水質汚濁防止法の改正に伴い、栄養剤タンク（有害物質貯蔵指定施設）を、屋外の埋設タンクから更新を致しました。更新後のタンクは改正法におけるA基準に適合する仕様と致しました。

法令を遵守し、地下浸透対策を実施致しました。



### (3) 騒音・振動に係る対策

推進の内容	実施の成果
① 騒音・振動の発生源の点検を強化し、騒音の未然防止に努めました。	騒音測定値は、規制値以下の安定した値となっています。
② 定期測定・パトロールを実施し、日常管理の強化に努めました。	

### (4) 悪臭に係る対策

推進の内容	実施の成果
① 処理施設の点検・メンテナンス強化、吸着塔内の活性炭の入れ替えを実施しました。	処理施設の安定した運転ができました。
② 定期測定の実施、パトロール体制の見直しにより日常管理の強化に努めました。	悪臭測定値は、規制値以下の安定した値となっています。

### (5) 産業廃棄物に係る対策

推進の内容	実施の成果
① 委託産業廃棄物処理の管理強化を行いました。	処理業者の立ち入り視察を行いました。 優良認定処理業者との委託契約を1件実施しました。 特別管理産業廃棄物（廃酸）の再利用に努めました。
② 再資源化率の向上に取組みました。	汚泥の再生委託率100%を維持しました。 廃プラスチックの再生利用率を、前年度比で6.8%向上しました。 製造工程で発生する廃棄物の再資源化率は99.5%以上を維持しました。


(6)緑化に係る対策

推進の内容	実施の成果
① 緑化内容の向上に枯れ木の伐採・樹木の剪定を実施し、工場内の緑を維持し、環境整備に努めました。	新設工場建屋の周辺に樹木を移植しました。

(7)地域連絡会

推進の内容	実施の成果
① 地域各団体の方々と相互理解を図るため、意見交換の場を持ちました。	漁協組合、地域町内会の方々との意見交換会を実施しました。 環境報告書による情報公開を行いました。

(8)その他

推進の内容	実施の成果
① 環境月間に工場周辺の清掃を実施しました。	工場周辺の美化活動を実施しました。 
② アイドリング・ストップ宣言に賛同	全従業員、運送業者に対し、アイドリング・ストップを周知徹底、励行しました。 出張時の公共交通機関利用を促進しました。
③ 関西エコオフィス宣言に賛同	節電・節水・暖房温度20℃以下、事務用品のグリーン調達100%を実施しました。
④ 再生可能エネルギーを活用した環境貢献	太陽光発電システムの維持管理に努め、計画値以上の発電を達成致しました。

2. 協定値と実績値の比較

(1) 大気関係

(実績値：最大値または年間総排出量)

項 目		協 定 値	実 績 値
窒素酸化物排出量	(Nm <sup>3</sup> /時)	22.2	6.9
	(t/年)	170.2	62.1

(2) 水質関係

①汚濁負荷量

項 目		協 定 値	実 績 値
化学的酸素要求量 (COD) (kg/日)	通常	420	305
	最大	436	329
浮遊物質 (SS) (kg/日)	通常	525	259
	最大	545	318
ノルマルキサン抽出物質含有量 (kg/日)	通常	36	<19
	最大	37	<20

## ② 許容限度

項	目	協 定 値	実績値
水素イオン濃度 (pH)	最小～最大	5.8～8.6	5.9～7.5
COD (mg/L)	日間平均	20	16
	最 大	30	19
SS (mg/L)	日間平均	25	14
	最 大	30	24
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (mg/L)	日間平均	2	<1
	最 大	3	<1
Zn (mg/L)	最 大	1.6	1.4

### 3. 環境保全活動

#### (1) 平成28年度基本方針

項目	内容
基本方針	<p>① 技術開発 オーミケンシグループの総力を結集し、人と地球環境にやさしい技術開発に取り組み、環境対策を進めます。</p> <p>② 環境保全 製品の設計・製造・販売・回収・廃棄にいたる全てのプロセスにおいて、環境に及ぼす影響を予測し、評価し、低減し、環境保全に努めます。</p> <p>③ 社会貢献 事業活動を通じてのみならず、地域社会の一員としても社会や地域の環境保護活動に積極的に参画します。</p>
組織体制	<pre> graph TD     A[推進責任者 (工場長)] --&gt; B[副工場長]     B --&gt; C[S R 生産課長]     B --&gt; D[研究所長]     B --&gt; E[衛材課長]     B --&gt; F[紡績工務課長]     B --&gt; G[原動課長]     B --&gt; H[設備・設計課長]     B --&gt; I[化繊工務課長]     B --&gt; J[事務課長]     B --&gt; K[試験管理課長]     B --&gt; L[試験管理課 (事務局)]         </pre>

#### (2) 平成28年度環境保全活動計画

環境保全活動	目標	目標達成のための計画、方策
自動車公害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイドリング・ストップの徹底</li> <li>・公共交通機関の利用促進</li> <li>・社有車燃料使用量の削減推進</li> </ul>	<p>① アイドリング・ストップ活動の推進継続</p> <p>② 通勤時、及び出張等外出時の公共交通機関の利用促進</p> <p>③ 社有車燃料使用量の削減</p>
化学物質対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学物質の漏洩の未然防止</li> <li>・化学物質使用量の削減</li> <li>・PCB使用機器の適正管理</li> </ul>	<p>① 化学物質等の保管、在庫管理の適正化</p> <p>② 施設の管理維持</p> <p>③ PRTR法による化学物質の排出量、移動量の把握</p>

エネルギー対策 (地球温暖化に係る対策)	・エネルギー原単位を前年度比で1%以上削減 (熱・電気合算)	① 廃熱の有効利用 ② 熱利用設備の適正管理 ③ 熱交換器の更新による廃熱利用効率の改善 ④ 汽力発電設備の総合効率改善 ⑤ 電気使用方法の改善 ⑥ 省エネ機器の導入 ⑦ 全従業員参加による省エネ活動の推進 ⑧ 太陽光発電システムの管理運用
廃棄物対策	・産業廃棄物の適正処理  ・再資源化率の向上	委託産業廃棄物処理の管理強化 優良認定処理業者への処理委託の検討  再資源化率の維持向上
不法投棄に係る対策	工場周辺の不法投棄を削減	工場周辺のパトロール、清掃の実施
緑化に係る対策	敷地内緑地の維持	緑化内容の向上に枯れ木の伐採・樹木の剪定、除草、植樹計画の実施
グリーン購入	事務用品のグリーン購入100%	事務用品グリーン購入の継続
環境マネジメントシステム	廃棄物の削減とリサイクル率の向上を目的としたシステムの構築	責任が明示された、手段や日程を含めた環境管理プログラムの検討
環境教育	環境保全に対する従業員の意識の向上	省エネルギー委員会活動を通して、全従業員を対象に環境保全に対する意識向上を図る。
地域社会への参画	行政等が行う環境保全活動への積極的な参加	① 行政等主催行事への積極参加 ② 工場周辺の美化活動
環境コミュニケーション	相互理解を図る	① 地域町内会代表の方々と相互理解を図るため、意見交換等の会合の実施 ② 環境報告書による情報公開
周辺環境に影響を与えるおそれのある事故等発生時の地元への広報等	◎地元組織への連絡 ・町内会関連 尾上町町内会連合会及び、工場近隣の各町内会長へ電話により連絡	① 連絡方法の周知徹底を図る

	<p>・漁協関連 東播磨漁業協同組合 (尾上本所・別府支所) へ電話により連絡</p> <p>◎東播磨地区石防協議会 への連絡</p> <p>東播磨地区 特別防災 区域 加古川播磨協議会 を組織する企業へ電話に より連絡</p>	
--	--	--



